

ゼミの武蔵「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト」 学部横断でチーム構成、企業の課題に取り組む “知と実践の融合”をめざして、企業とつながる

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）の「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト」は、今年度で11年目を迎えました。これは、経済学部・人文学部・社会学部の3学部が協働で企業からの課題に取り組むプロジェクトで、ゼミをさらに発展させたものです。近年、日本企業が抱える経営課題は、人材の強化や働き方改革、SDGs など様々ありますが、産学連携のもと、実際の企業から与えられた課題に対して、学部を超えてチームをつくり、その企業にふさわしいデザインとコンテンツをもった『CSR 報告書』を作成します。

プロジェクトの概要

3学部の学生で一つのチームを作り、学部の専門性を生かしながら調査・分析し、企業*からの課題解決に取り組みます。このプロジェクトの課題は、《担当企業のCSR 報告書の作成》と《今後のCSR 活動とCSV 活動についての提案》です。学生はチームごとに、担当する企業を3カ月間かけて調査・分析し、その結果を最終報告会にて発表します。 *2018年度課題提供企業：協栄産業株式会社、株式会社丸高工業、株式会社キミカ、株式会社協進印刷

プロジェクトの目的

CSR 活動の調査や報告書作成を通して、学生自らも一市民として持続可能な社会を築くために果たすべき役割を意識することを目指しています。また、普段あまり知ることのない他学部の学生とその専門性に触れ、協働で一つのものを作りあげる活動を通して、異なる考え方や価値観を知り、現実社会を生きる上で必要となる「多様な視点」を学生が身につけることを企図しています。

プロジェクトの進め方ー2段階システム

▶**Phase1**(学部別予備的調査段階) 学部ごとにそれぞれの専門性を応用しつつ、異なる角度から課題に対してアプローチ。**中間発表会**でのプレゼンテーションを経て、Phase2へ。

▶**Phase2**(学部横断型活動段階) これまでの調査結果を共有し、CSR 報告書の制作に向けてディスカッションを重ね、報告書にまとめる。

▶**最終報告会** (7月、12月開催) 企業担当者にCSR 報告書を配付し、どんな議論と調査を経て完成させたのかについて発表します。この報告会は、一般開放しておりますのでどなたでもご聴講できます。



↑ディスカッションする学生たち

—本件に関するお問い合わせ先—

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@mml.sec.musashi.ac.jp

■ 武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕 ～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立旧制七年制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。近年ではロンドン大学の学位が取得できるプログラムや国際村の設置などグローバル教育にも力を入れている。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1